

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表したので送付します。

令和 4 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

令和 4 年 6 月 14 日
岡 山 県

1. 病害虫名 ネギえそ条斑病
2. 病原ウイルス アイリス黄斑ウイルス *Iris yellow spot virus* (IYSV)
3. 発生作物名 ネギ
4. 特殊報の内容 岡山県でのネギにおいてえそ条斑病の初発生を確認
5. 初発生確認月日 令和 4 年 6 月 6 日
6. 発生確認場所 岡山県南部
7. 発生面積 1 a
8. 発生の経緯

令和 4 年 6 月に岡山県南部の露地栽培ネギほ場で、葉身に淡黄色から白色の条斑を生じる症状が発生した(図 1、2)。病害虫防除所において R I P A 法(イムノクロマト)による検定を行ったところ、IYSV によるネギえそ条斑病であることが確認された。本県では、平成 16 年にトルコギキョウで IYSV によるトルコギキョウえそ輪紋病の発生が確認されている(平成 16 年度特殊報)が、ネギ類における本病の発生は初確認である。

9. 他県での状況

本ウイルス(IYSV)による病害は、平成 8 年に千葉県のアルストロメリアで国内で初めて確認されて以降、全国 30 以上の都府県のタマネギ、ネギ、トルコギキョウ、テッポウユリなど様々な作物で発生が確認されている。近隣では、兵庫県、鳥取県、広島県、香川県、愛媛県のネギ、タマネギ、ラッキョウ、トルコギキョウ、テッポウユリでの発生が過去に報告されている。

10. 本病の特徴

(1) 病徴

発病初期には葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後紡錘形で白色～淡黄色のえそ条斑を生じる。病勢が進行すると病斑が癒合拡大し、大型のえそ条斑症状となり、葉が萎凋・枯死することがある。

(2) 伝染経路

本ウイルスはネギアザミウマによって媒介される。ネギアザミウマが感染植物を吸汁することによって本ウイルスを獲得し、一度ウイルスを獲得したネギアザミウマは終生ウイルスを伝搬する。なお、経卵伝染はせず、その他のアザミウマによる媒介は確認されていない。また、土壌伝染や種子伝染はせず、管理作業による汁液(接触)伝染の可能性も低いとされている。

(3) 宿主範囲

17 科 40 種以上の植物で IYSV の感染が確認されている(表 1)。

11. 防除対策及び参考事項

- (1) 本ウイルスに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努め、本虫の発生初期に薬剤散布を実施する。なお、薬剤防除の際は、ネギアザミウマまたは、アザミウマ類に登録のある農薬を散布する。また、薬剤抵抗性害虫の出現防止のため、同一系統の農薬の連用を避け、ローテーション防除を実施する。
- (2) 施設栽培の場合は、紫外線カットフィルムの被覆や、開口部に防虫ネット（0.8mm 目合以下の赤色ネット等）の設置、施設周囲に光反射シートを敷設し、外部からのネギアザミウマの侵入を防ぐ。
- (3) ほ場周辺の雑草および発病株や収穫後の残渣は、ウイルスの感染源やネギアザミウマの生息場所となるため、除草や残渣の持ち出しを徹底する。

表1 IYSVによる感染が確認されている主な植物

科名	植物名
ユリ科	ネギ・タマネギ・ニラ・ニンニク・ラッキョウ・テッポウユリ・ユリ・リーキ
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	スイセン・アマリリス・ユーチャリス・クンシラン
アヤメ科	ダッチアイリス
アブラナ科	ダイコン・ハクサイ・ブロッコリー・ミズナ・イヌガラシ・スカシタゴボウ・タネツケバナ・ナズナ
セリ科	ニンジン
カタバミ科	カタバミ
キク科	チチコグサモドキ・ノボロギク・ハキダメギク・ノゲシ・タカサブロウ・オニノゲシ
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ・トキワハゼ
シソ科	ホトケノザ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スマレ科	パンジー
ナデシコ科	ハコベ・コハコベ・オランダミミナグサ・ノミノフスマ
ヒユ科	センニチコウ
アカザ科	ハウレンソウ
マメ科	ヤハズエンドウ
カヤツリグサ科	コゴメカヤツリ

注) 海外の報告を含む



図1 圃場における発生状況



図2 ネギ葉身の病斑
(白矢印：紡錘型のえそ条斑)
(黒矢印：ネギアザミウマの食害痕)

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239

